

GOOD DESIGN



1. 現状の問題点

数々の“もったいない”

昨今は、経済効率を優先する余り、活用可能な建物や樹木を持つ土地も開発の為に簡単に整地されてしまう。また、逆に開発できるほどの収益性が無い土地や空き家が長い間、メンテナンスもなされないまま放置されている社会状況である。



1

色々な“もったいない”を有効活用しよう!



地域住民のためのコミュニティスペースをつくりましょう!



それが「椿森コムナ」なんだね!



3. 打開策



コミュニティスペースへの利用

空き家や遊休地を、安易に放置したり、駐車場へ開発するのではなく、近隣住民が顧客利用及び自身で商用利用できるようなスペースへと変貌させた。かたちだけのスペースにしない為、地域の店舗やアーティストと強い繋がりのある地元の有志へ運営委託。

2

2. 発想の転換

保有資産の有効活用

色々な形の保有資産を地域住民とのシェアで有効に活用することにより、地域の活性化に役立てたいという思いで、千葉駅徒歩圏内の住宅地の中に残された屋敷林跡で、このプロジェクトをスタート。

3

活性化の為の3つの創意工夫

4

4. 改善

ちゃんと利用されるスペースとすることで、地域全体の活性化に貢献

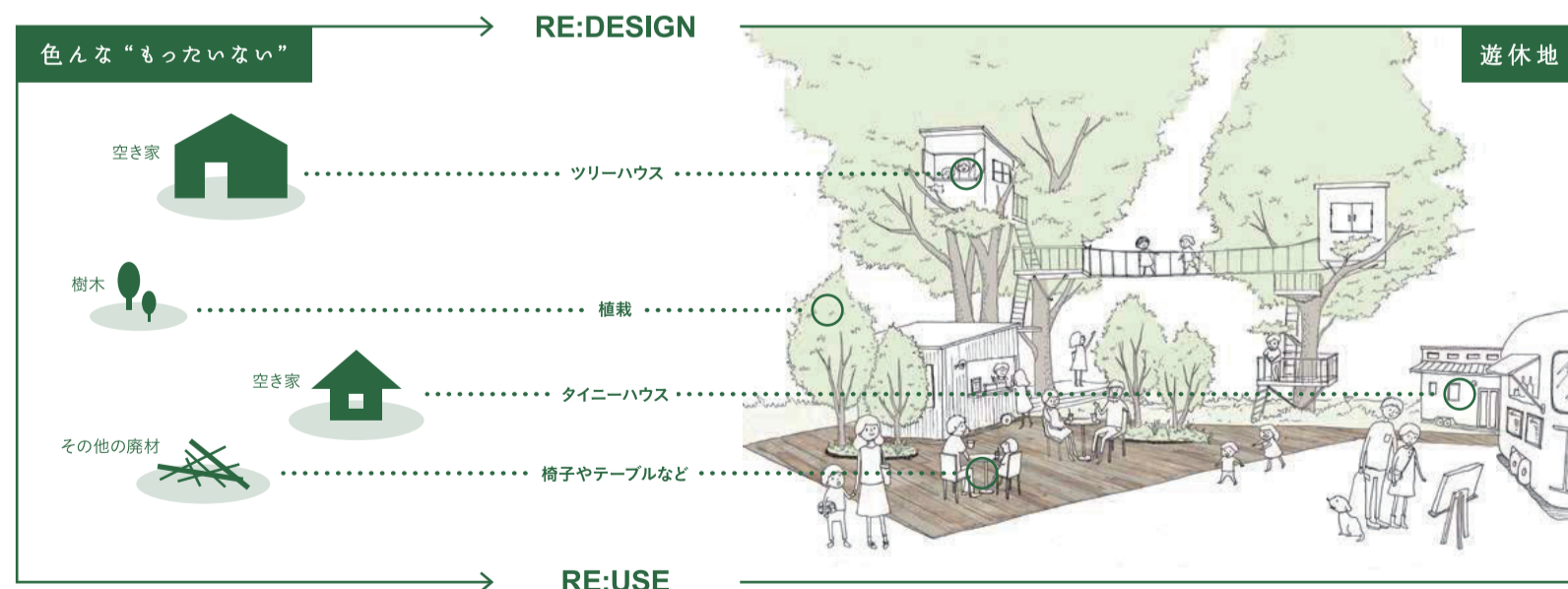
そうして、その街に住む人々が、本当に活性化されることで、大規模な区画整理や資本投入を行わずとも、その対象も含む周辺土地の価値が向上することを狙うことも出来る。



NEXT

次のコムナへ

1 “もったいない”を利用した、様々な用途の可動式タイニーハウスや家具。特にツリーハウスのシンボル性による圧倒的な集客で、近隣住民にとってこの場所での出店が価値のあるものと認識させた。



色々な土地の色々な“もったいない”が遊休地に集結し、「椿森コムナ」に。 ※一部は、その土地でそのまま利用。それぞれのタイニーハウスは、次の「〇〇コムナ」に移動も可能。



移動可能な仕様 木製パレットのベンチ&テーブル (千葉県八千代市の京成パワハラ園から譲渡) イチョウとカシのツリーハウス

2 地元の有志に委託し、場のポテンシャルを最大限に引き出す多様な地域の出店者やワークショップと密に連携。飲食スペースとしてだけでなく、多世代の交流や様々な需要と供給を結ぶものを企画実施。

3 集客の為の宣伝活動はもとより、千葉市主催の戦略的CSRセミナーへのパネリストとして参加するなど、このような企画や考え方が全国各地に広がることを願い、外部への広報も積極的に行なっている。



こどもの日 緑日イベント 地元子供会のピザ教室 大人向けイベント オトナコムナ